

S06 脳科学と教育

企画者	武庫川女子大学	河合優年
企画者	関西大学	田中俊也
司会者	関西大学	田中俊也
話題提供者	東京女子医科大学	小西行郎 #
話題提供者	㈱日立製作所	小泉英明 #
話題提供者	東北大学	川島隆太 #
話題提供者	名古屋大学	八田武志
指定討論者	武庫川女子大学	河合優年

概要

脳科学の発展が教育に関与できる可能性を、医学・ロボット工学・大脳生理学・心理学の領域から考え、特に心理学が関与できる部分について明確にし、今後の研究に寄与する契機としたい。

行動科学として発達してきた心理学は、その内的過程をブラックボックスとして操作的に定義してきた歴史的経緯がある。近年の脳科学では、MRIや光トポグラフィを用いて行動との対応を明確にすることが可能となってきた。

このような流れの中で、文部科学省も脳科学と教育についての研究を推進しようとしている。心理学に対する期待も大きくなりつつある現時点で、最新の脳科学と心理学の研究を、教育という実践的枠組みの中で討論することの意味はきわめて重要であると考えられる。

話題提供者の小泉氏（日立製作所：JST 脳科学と教育 ディレクター）には、今日の諸外国における脳科学と教育について総合的な視点から問題の提起をお願いする。

小西氏（東京女子医大）には小児神経の立場から、早期教育などが脳の発達にとってどのような問題を持つのか、また利点を持つのかについて議論をお願いする。

川島氏（東北大学）には、学習領域でのいわゆる「陰山メソッド」の理論的背景としての脳の機能的な変化と学習過程について話題提供をお願いし、心理的働きのどこまでが脳科学で明らかになってきたのかについて話題提供をいただく。

八田氏（名古屋大学）からは、心理学においても、10年以上前から脳の機能については研究が進んできていることを紹介いただき、それが実際の教育とどのように結びついてきたのかについて話題提供をお願いする。

その後河合氏（武庫川女子大学）から、発達の縦断研究の可能性に絡んで全体の議論の進行をお願いする。